



The 4th Annual Meeting of
the Japanese Association of Cardiovascular Nursing

第4回 日本循環器看護学会 学術集会

プログラム・抄録集

循環器看護の未来を拓く —患者満足へのあくなき挑戦—

会期 2007年 11月17日(土)・18日(日)

会場 東京ビッグサイト

〒135-0063 東京都江東区有明3-21-1 TEL.03-5530-1111(代)

学会長 道又 元裕 日本看護協会 看護研修学校

第4回 日本循環器看護学会学術集会

The 4th Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Nursing

プログラム・抄録集

会 期：平成19年**11月17日**田・**18日**回

会 場：東京ビッグサイト

〒135-0063 東京都江東区有明3-21-1 TEL. 03-5530-1111(代)

会 長：道又 元裕 日本看護協会 看護研修学校 校長



第4回日本循環器看護学会学術集会 開催にあたって

第4回日本循環器看護学会学術集会

会長 道又 元裕 日本看護協会 看護研修学校 校長

このたび、第4回日本循環器看護学会学術集会を担当させて頂く機会を賜り、本学会理事、評議員をはじめすべての会員の皆様、また、講演、司会、座長を快くお引き受け下さいました方々に深く感謝申し上げます。

日本循環器看護学会は2004年11月20日に設立総会（第1回）をもって発足いたしました。本学会の目的は、循環器病に関する健康問題について市民と医療者（医療の提供者）が協働し、ともに問題解決にあたること。また、三大国民病の主要部分を占める循環器病の看護について学術的に追求することを目指し、循環器病に関する看護学の発展を図り、広く知識・技術の交流に努め、もって市民の健康と福祉に貢献できる看護実践を行なうことであります。循環器看護は、心臓・血管系だけではなく、脳循環・神経系に健康障害を有する人々も対象となります。それ故、学会参加者も幅広い分野の人々によって構成されます。そのため、発足以来約3年で、現在の会員は約800名を超えております。

今回の第4回日本循環器看護学会学術集会では、「循環器看護の未来を拓く」－患者満足へのあくなき挑戦－というテーマを掲げ、循環器看護の対象となる人々や看護をとりまくさまざまな領域の方に参加いただき、皆様と討論を行いたいと考えております。

主要プログラムとして「シンポジウム」「パネルディスカッション」「ワークショップ」を企画し、「教育講演」はあらゆる分野の専門家をお願いしております。また、この分野が多く看護師や広く社会にも認められるよう新人看護師を対象としたフレッシュナースセミナーを2日間行います。さらには、趣向を凝らしたメタボリックシンドローム関連の市民公開講座も開催します。一般演題も多く応募があり、学会場は活発な討論の場になるとものと胸を躍らせております。

一方、会員懇親会を学会初日の夕方に計画しております。場所はお台場の夜景が一望できる東京ビックサイト最上階スカイレストランを予定しております。人数に限りはございますが、ユニークなエンターテイナーをお呼びしてありますのでふるってご参加ください。

沢山の方々のご参加をお待ちするとともに、熱気に満ち溢れた活発な討論をして頂けるようお願い申し上げます。

学術集会概要

会 期：平成19年**11月17日**☎・**18日**☎

会 場：**東京ビッグサイト**

〒135-0063 東京都江東区有明3-21-1 TEL. 03-5530-1111(代)

会 長：**道又 元裕**(日本看護協会 看護研修学校)

第4回学術集会事務局：日本看護協会 看護研修学校 集中ケア学科内
事務局長 中田 諭

〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-2-3

TEL(042)492-7249 FAX(042)492-8653

E-mail:satoshi.nakata@kiyose.nurse.or.jp

学会へ参加される方へのお知らせ

ご来場交通機関について

会場への交通手段、駐車場・会場内の案内につきましては、地図等をご覧ください。

会場利用にあたって

会場内では携帯電話、PHSの電源はお切りくださいますようお願いいたします。

会場内での発表、スライド、ポスターの写真撮影は著作権の問題がありますので、発表者の許可を得てからお願い致します。なお、ビデオ撮影はご遠慮ください。

総会の出席について

総会は11月17日☎13時より第1会場(メインホール)で開催いたします。会員の方は参加証を着用し、総会資料をお受け取りの上、ご出席ください。

昼食について

第1日目(17日)はランチョンセミナーを開催いたします。各ランチョンセミナーの詳細は「ランチョンセミナーについて」の項をご参照下さい。

会場内でのお弁当の販売は行っておりませんので、ランチョンセミナーでの飲食をされない方は東京ビッグサイト内飲食店をご利用ください。

携帯品の預かりについて

手荷物お預かりは総合受付奥のクロークにて行います。

お預かり時間：11月17日☎ 8時30分～18時00分

11月18日☎ 8時30分～12時30分

両日ともお預かり時間を過ぎましたら会場を閉鎖致しますので、お預けになったお手荷物は時間内に必ずお引き取りください。

懇親会に参加される方は荷物をお引取りいただいてからご参加ください。

お預かりできるお荷物は1つとコート類です。貴重品はお預かりできません。保管の責任は当方では負いかねますのでご承知おきください。

会場内での呼び出しなどについて

各会場内での呼び出しは行いませんので、ロビーに設置されている伝言板をご利用ください。緊急時には総合受付にてご相談ください。

会場においてのご案内は、実行委員・ボランティアが「STAFF」と書いた名札をつけておりますので、お困りの際は声をかけてください。

抄録について

一般演題の抄録では発表者の名前に○印がついています。

総合受付において、抄録のみの販売も行っております。値段は1冊1,500円です。

書籍販売および企業展示について

書籍販売は受付の隣にて実施します。また、企業展示については企業展示会場（603会議室）にて行っています。販売および展示時間を確認の上ご利用ください。

取材の方へ

本学術集会の取材を希望される方は、プレス受付にて受付を行った後に取材をしてください。受付では必要事項を記入と引き換えに人数分のネームカードをお渡しします。取材については参加費として1社につき10,000円をお支払いください。プログラム・抄録集は1社につき一冊お渡しします。

受付について

参加者の受付は、会議棟6階受付で行います。

会員・非会員を問わずすべて当日受付となります。

参加費と引き換えに参加証・ネームカード・領収証をお受け取りの上、参加証・ネームカードに所属・氏名を記入してください。

参加証は、所属・氏名を記入の後はミシン目に沿って切り離し参加証登録箱に入れてください。

ネームカードは、受付で用意されているケースに入れて首からさげてください。

会場内では必ずネームカードを入れたケースを着用してください。

受付時間

2007年11月17日(土) 8時30分～17時30分

2007年11月18日(日) 8時30分～12時30分

学術集会参加費

会員・非会員10,000円 学生5,000円を添えて、受付をしてください。

(学生とは看護師の資格を持たない看護学生となります。学生証をご提示ください。)

1. 学会員の方へ

学会員の方には事前にプログラム・抄録集を登録している住所に送付しています。当日お忘れにならないようにご持参下さい。

2. 非学会員の方へ

受付にてプログラム・抄録集を販売しております。参加受付時にご購入ください。

(プログラム・抄録集 一冊につき¥1,500-)

3. 日本循環器看護学会入会デスク

学術集会開催中は、当日受付横に日本循環器看護学会の入会デスクを設けます。入会デスクでは入会申し込み・年会費の納入受付を行います。

特別講演・教育講演・シンポジウム・ワークショップの演者・司会の方へ

■ 演者・司会の方へ

担当される講演・司会の30分前までに受付をお済ませください。

担当される講演・司会の10分前までに会場内の指定された席にご着席ください。

■ 演者の方へ

- 発表データは当日 USB のフラッシュメモリおよび CDR にコピーしてご持参ください。
(データのバックアップは発表者個人の責任でお願いします)
当日は念のために各自バックアップをお持ちになることをお勧めいたします。
- 発表用データは、必ず発表群開始の1時間前まで(8時30分以降)に PC 受付で受付してください。PC 受付にて、ご自身で動作確認をしていただきます。この時、データの交換・修正はできませんので、予めご了承ください。

一般演題の演者・座長の方へ

■ 座長の方へ

担当される群の30分前までに会場前にて受付をお済ませください。

担当される群の10分前までに次座長席にご着席ください。

1演題12分です。いずれも時間厳守でお願いいたします。

演者の欠席が出た場合には、発表を繰り上げて進行してください。

■ 演者の方へ

- 演者は各群の発表時間の10分前までに各会場の次演者席にお着きください。5名の発表者の方々がそろっているかどうかを確認させていただきます。発表者の欠席が出た場合、繰り上げて発表していただきますので、予めご了承下さい。
発表形式は全て「口演」といたします。発表方法はパソコンとプロジェクターによるプレゼンテーションとします。
- 発表時間は1演題につき12分(発表8分、質疑応答4分)です。
- PC のマウス操作は各発表者にて行っていただきます。
- 終了1分前(発表開始7分後)にベルでお知らせいたします。
- 会場での資料配布はできません。
- 発表データは当日 USB のフラッシュメモリおよび CD-R にコピーしてご持参ください。
(データのバックアップは発表者個人の責任でお願いします)
当日は念のために各自バックアップをお持ちになることをお勧めいたします。
- 発表用データは、必ず発表群開始の1時間前まで(8時30分以降)に PC 受付で受付してください。PC 受付にて、ご自身で動作確認をしていただきます。この時、データの交換・修正はできませんので、予めご了承ください。

発表者への共通のお知らせ

■発表用データについて

- 発表形式は全て「口演」といたします。発表方法はパソコンとプロジェクターによるプレゼンテーションとします。
発表用データは、必ず発表群開始の1時間前まで(8時30分以降)にPC受付で受付してください。PC受付にて、ご自身で動作確認をしていただきます。この時、データの交換・修正はできませんので、予めご了承ください。
- 当日のPC発表は[Windows XP]のPowerPoint2003[®]を使用いたします。また、PowerPoint[®]の作成の際には、Windows標準フォント(MS明朝、MSP明朝、MSゴシック、MSPゴシック)のみをご使用ください。それ以外のフォント使用されますと、正しく表示ができない場合があります。
- Office2007[®]、PowerPoint2007[®]で作成したファイルは、PowerPoint2003[®]では表示できませんので、保存時に「PowerPoint97-2003プレゼンテーション」で保存ください。
- 作成されたデータのファイル名は、[発表演者名(発表群)]で保存してください。
例：道又 元裕(せん妄)など
- 音声および動画などのご使用は、ご遠慮ください。
- 1演題につき1ファイルとさせていただきます。

ランチョンセミナー

第1日目17日(土)12時00分から3会場でランチョンセミナーを開催いたします。各ランチョンセミナーの参加は先着順となります。

各会場のランチョンセミナー受付については学術集会の当日に受付にてご案内いたします。ランチョンセミナーの開催につきましては、その前のセッション終了後、会場から一度退室していただきます。円滑な運営にご協力くださいますようお願いいたします。

フレッシュナースセミナーに参加される方へ

- 循環器看護にかかわる1年目～2年目を対象にしたセミナーを学術集会セミナー会場にて行います。学術集会に参加されるフレッシュナースの方は、ぜひご参加ください。
- セミナーは1日目午後と2日目午前の2回開催されます(2回の内容は同じです)。
1日目 午後(14:00～17:00)
2日目 午前(9:00～12:00)
- 申込時にいずれのセミナーを受講するか選択してください。
セミナー申込は学術集会の参加受付終了後、セミナー受付デスクにて先着順に受け付けます。セミナーは、学術集会参加者のみの限定でセミナー受講料は無料です。
対象は循環器看護に関わる新人看護師(1年目～2年目看護師)が対象です。受付時に、氏名、所属施設、所属部署、連絡先、経験年数の記入をしていただきます。対象外の方の受講はご遠慮願いますようお願いいたします。

市民公開講座に参加される方へ

市民公開講座へのご参加は第2日目(18日)の昼12時より市民公開講座受付にて申込みを受け付けます。市民公開講座への参加は学術集会に参加されている方も自由に参加いただけます。参加費は無料です。

学会会議

■ 評議員会

日 時：平成19年11月17日(土) 11:45～12:45
会 場：東京ビッグサイト 第4会場 601会議室

■ 総 会

日 時：平成19年11月17日(土) 13:00～14:00
会 場：東京ビッグサイト 第1会場 メインホール

懇親会について

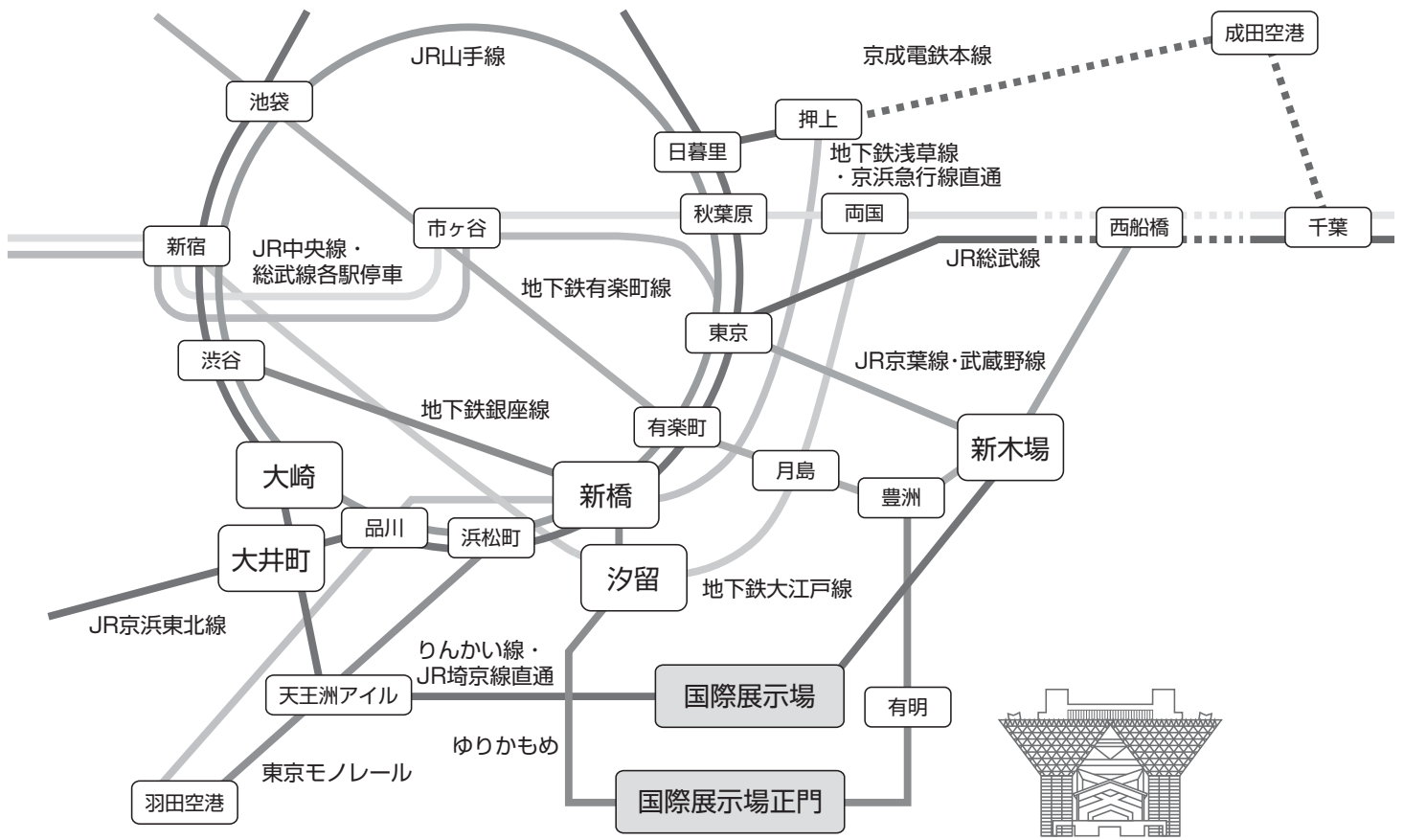
懇親会は11月17日(土)18時から東京ビッグサイト8階レストラン「レストランテ・トレヴィイ」にて開催いたします。

18時00分～20時00分

■ 懇親会受付

- 懇親会の受付は、11月17日午前8時30分より懇親会受付デスクにて行います。懇親会受付は学術集会参加申し込みが終了した方から先着順に受け付けます。申し込み用紙に必要事項を記入の上、懇親会費を添えて受付担当者にお渡し下さい。引換券をお渡しします。
- 定員になりましたら受付は終了させていただきます。ご了承ください。
- 懇親会会場入り口の受付は17時30分より行います。会場入り口にて引換券と引き換えに氏名の入ったネームフォルダをお渡しします。懇親会会場で必ず懇親会用ネームホルダを首にかけて入場ください。

路線図



東京ビッグサイトへのアクセス

りんかい線 国際展示場駅下車徒歩7分

- 大崎駅 (JR) …… 13分 …… 国際展示場駅 …… 5分 …… 新木場駅 (JR、営団地下鉄)
- ※大崎から新宿・大宮方面へ JR 埼京線相互直通運転

ゆりかもめ (新交通) 国際展示場正門駅下車徒歩約3分

- 新橋駅 (JR、東京メトロ・都営地下鉄) …… 22分 …… 国際展示場正門駅
- 豊洲駅 (東京メトロ) …… 8分 …… 国際展示場正門駅

水上バス

- 日の出桟橋 (JR 浜松町駅徒歩7分) …… 20分 …… 有明客船ターミナル (下船徒歩約2分)

都営バス

- 東16系統 (豊洲駅前経由) : 東京駅八重洲口 …… 35分 …… 東京ビッグサイト …… 5分 …… 東京テレポート
- 海01系統 (豊洲駅前経由) : 門前仲町 …… 30分 …… 東京ビッグサイト
- 虹01系統 : 浜松町駅 …… 30分 …… 東京ビッグサイト

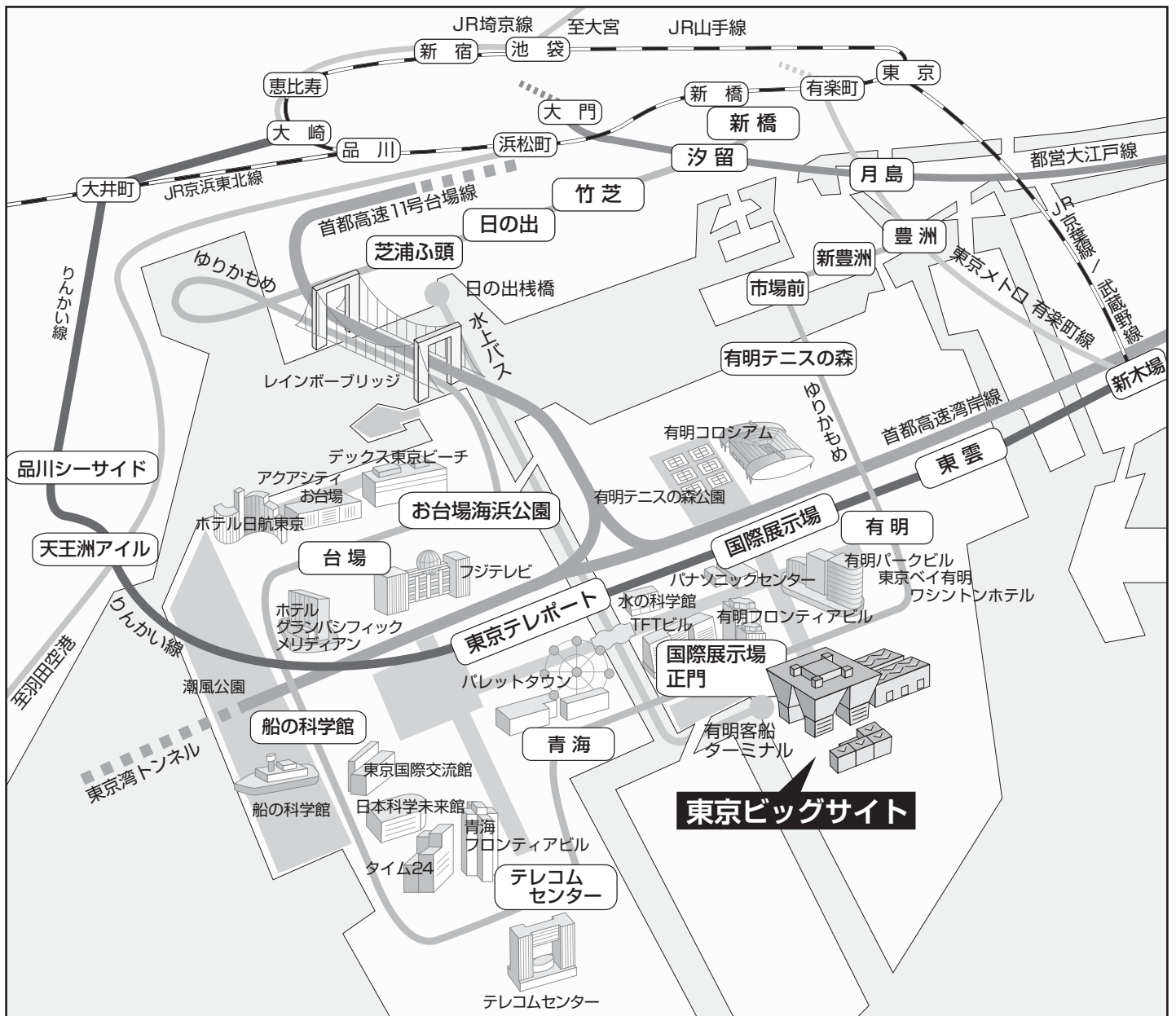
空港バス (リムジンバス・京浜急行バス)

- 羽田空港 …… 約25分 …… 東京ビッグサイト
- 成田空港 …… 約60分 …… 東京ビッグサイト
- 東京シティアターミナル (TCAT) …… 約20分 …… 東京ビッグサイト
- ※イベント開催時のみ運行の便もありますので、ご確認ください。

その他直行バス (京浜急行バス)

- 横浜駅東口 …… 約50分 …… 東京ビッグサイト

会場周辺図



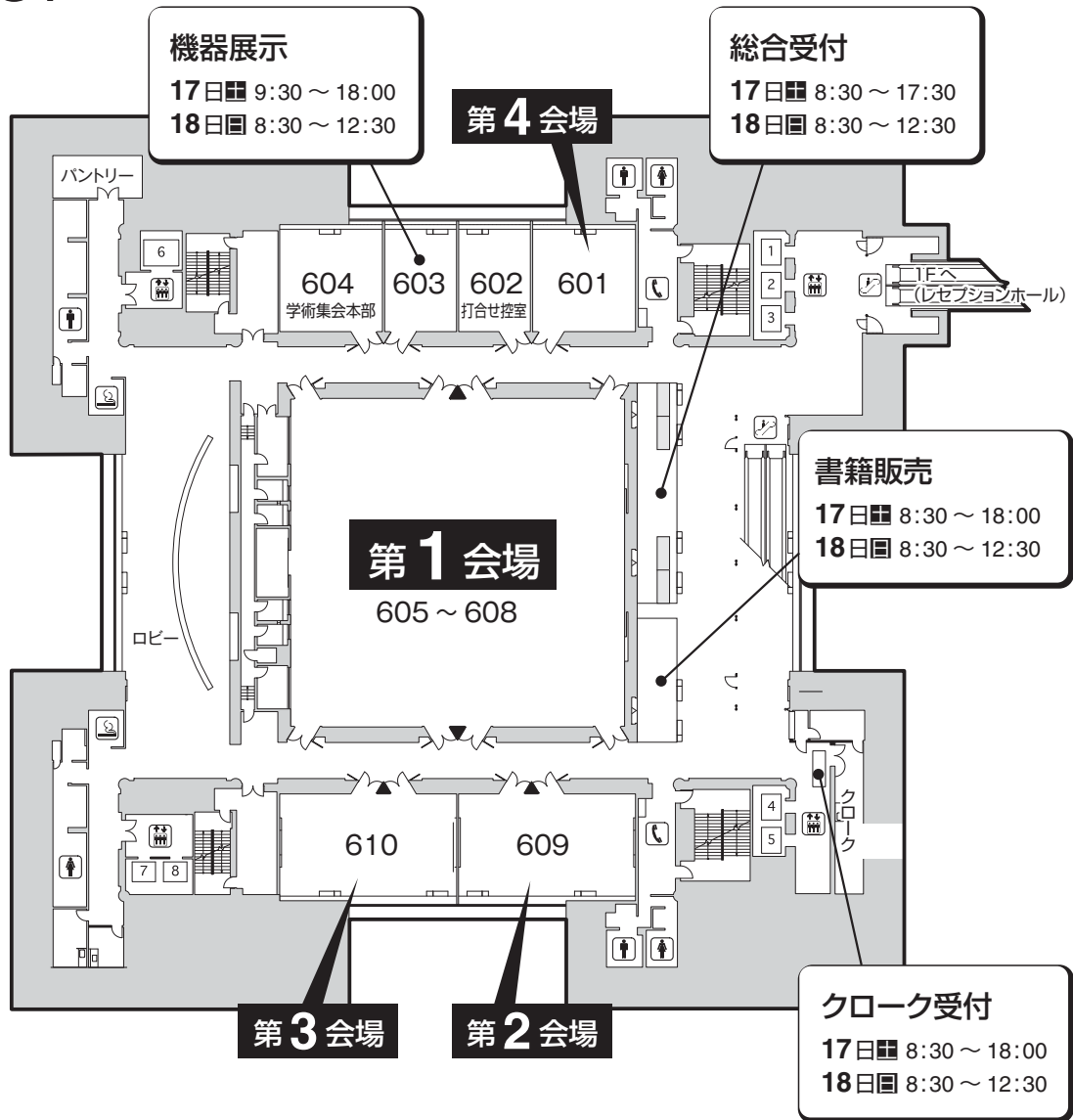
車(首都高速利用の場合)

- 都心から(11号台場線・レインボーブリッジ経由)
..... お台場ランプから約5分
- 大井・羽田方面から(湾岸線)
..... 13号地ランプから約5分
- 千葉・葛西方面から(湾岸線)
..... 有明ランプから約5分

会場案内図

会議棟

6F



	第1会場 メインホール	第2会場 609会議室	第3会場 610会議室	第4会場 601会議室
9:00	開会式			
10:00	会長講演 9:30~10:20 「循環器看護の未来を拓く」 座長：深谷智恵子 演者：道又 元裕	一般演題 9:30~10:30 看護業務・看護管理・安全	一般演題 9:30~10:30 患者の体験・行動分析1	
11:00	特別講演 10:30~11:45 「心臓にいい話」 座長：道又 元裕 演者：小柳 仁	教育講演1 10:30~11:45 「循環器疾患の周術期管理」 司会：甲屋 早苗 演者：平山 統一	一般演題 10:30~11:42 患者の体験・行動分析2	
12:00	ランチョンセミナー1 共催： ブリストル・マイヤース スカイブ コンパテック事業部	ランチョンセミナー2 共催： メディカ出版株式会社	ランチョンセミナー3 共催： ヴェクソンインター ナショナル株式会社	評議委員会
13:00	総会			
14:00	パネルディスカッション1 14:00~15:20 「循環器看護の専門性とは何か」 座長：山田佐登美・黒沼恵美子 演者：岡田 彩子・吉田 俊子 宇都宮明美	教育講演2 14:00~15:10 「心臓リハビリテーションの理論と実際」 司会：畦地 萌 演者：徳田 雅直	一般演題 14:00~14:48 看護技術	フレッシュナースセミナー 司会：辻 佐世里 1 循環系フィジカルアセスメント 演者：八木橋智子 2 心電図の基本的理解 演者：浦部 誉子 3 心不全の病態と看護 演者：伊与 恭子 4 循環器領域で使用するME機器の理解 演者：大槻 勝明
15:00			一般演題 14:48~15:36 せん妄	
16:00	シンポジウム 15:30~17:20 「循環器看護患者満足へのあくなき挑戦」 座長： 寺町 優子・豊田百合子 演者： 三浦稚郁子・眞茅みゆき 西田 和美・宮脇 郁子	教育講演3 15:20~16:20 「カウンセリングとコミュニケーションスキル」 司会：池亀 俊美 演者：長谷川恵美子	一般演題 15:36~16:24 教育	
17:00		教育講演4 16:30~17:30 「循環器ケアに必要なモニタリングの知識と実際」 司会：村本多江子 演者：米山多美子	交流セッション 「心肺蘇生法の今—臨床効果と問題点—」 司会：浅香えみこ 演者：佐藤 憲明	一般演題 17:00~18:00 継続看護・レビュー
18:00				

■ 懇親会 会議棟8F リストランテ・トレヴィ [TREV] 18:00~20:00

	第1会場 メインホール	第2会場 609会議室	第3会場 610会議室	第4会場 601会議室
9:00	<p>パネルディスカッション2 9:00~10:20</p> <p>〔心臓リハビリテーションの 効果と実際〕</p> <p>座長：吉田 俊子・山口 悦子 演者：長山 雅俊・井澤 和太 小西 治美</p>	<p>教育講演5 9:00~10:20</p> <p>〔循環器疾患を持つ 患者・家族の教育的支援〕</p> <p>司会：安倍 征子 演者：池亀 俊美</p>	<p>一般演題 9:00~10:00</p> <p>看護ケアに関する調査</p>	<p>フレッシュナースセミナー</p> <p>司会：安藤 有子</p> <p>①循環系フィジカル アセスメント 演者：八木橋智子</p>
10:00			<p>一般演題 10:00~11:00</p> <p>術後管理・ 心臓リハビリテーション・ 栄養管理</p>	<p>②心電図の基本的 理解 演者：浦部 誉子</p>
11:00	<p>ワークショップ 10:30~12:00</p> <p>〔循環器看護の ベストプラクティス〕</p> <p>座長： 曾田 信子・山内 英樹 演者： 竹嶋 千晴・角口亜希子 畦地 萌・辻 佐世里</p>	<p>教育講演6 10:30~12:00</p> <p>〔スタッフ教育の奥義〕</p> <p>司会：中野あけみ 演者：松月みどり</p>	<p>一般演題 11:00~12:00</p> <p>患者指導・家族支援</p>	<p>③心不全の病態と 看護 演者：伊与 恭子</p> <p>④循環器領域で 使用する ME機器の理解 演者：大槻 勝明 ※1日目と同一内容</p>
12:00	<p>閉会式</p>			
13:00				
14:00	<p>市民公開講座</p> <p>働き盛りのあなたに できるメタボリック シンドロームの対策 ーメタボなお腹よ さようなら!!!ー</p> <p>演者： 瀬戸奈津子 森 加苗愛 滝澤 直美</p>			
15:00				
16:00				
17:00				

平成19年11月17日 ㊦

第1会場 メインホール

会長講演 9:30～10:20

座長：青森県立保健大学 看護学科 教授 深谷智恵子

循環器看護の未来を拓く －侵襲に対する生体反応との出会いから思う－

道又 元裕 日本看護協会 看護研修学校 校長

特別講演 10:30～11:45

座長：日本看護協会 看護研修学校 校長 道又 元裕

心臓にいい話

小柳 仁 東京女子医科大学 名誉教授、聖路加国際病院 ハートセンター 顧問

ランチョンセミナー1 12:00～13:00

司会：大分大学医学部附属病院 集中治療部 集中ケア認定看護師 尾野 敏明

クリティカルケア領域における予防的スキンケア －明日から実践できるナーシングスキル－

溝上 祐子 日本看護協会 看護研修学校 皮膚・排泄ケア学科 専任教員

便失禁管理システム フレキシシールの使用経験

尾野 敏明 大分大学医学部附属病院 集中治療部 集中ケア認定看護師

共 催：ブリストル・マイヤースクイブ コンバテック事業部

パネルディスカッション1 14:00～15:20

座長：岡山大学病院 看護部 看護部長 山田佐登美
京都大学附属病院 看護部 副看護部長 黒沼恵美子

[循環器看護の専門性とは何か]

P1-1 循環器看護の専門性とは何か

岡田 彩子 財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院 看護部 副看護部長
人材育成・企画担当 米国循環器 CNS

P1-2 循環器看護分野の専門性—臨床と教育の相互連携が果たす役割

吉田 俊子 宮城大学大学院 看護学研究科 教授

P1-3 循環器看護の専門性とは何か

宇都宮明美 兵庫医科大学病院 ICU 看護師長、急性・重症患者看護専門看護師

シンポジウム 15:30～17:20

座長：前 東京女子医科大学 看護学部 寺町 優子
大阪府看護協会 会長 豊田百合子

[循環器看護 患者満足へのあくなき挑戦]

S-1 循環器領域における安全で安心な医療とは ～納得される看護を提供するための課題～

三浦稚郁子 財団法人日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院 看護部長

S-2 慢性心不全患者の予後・QOL の向上を目指した疾病管理プログラムの構築

眞茅みゆき 国立国際医療センター研究所 医療情報解析研究部 ゲノム疫学研究室 室長

S-3 循環器看護領域における患者満足とはなにか

西田 和美 聖路加看護大学大学院 看護研究科 博士前期課程 看護管理学専攻 集中ケア認定看護師

S-4 循環器疾患患者の illness trajectory に沿った看護支援 —植込み型除細動器 (ICD) など新しい医療機器の臨床導入をめぐる課題—

宮脇 郁子 神戸大学医学部 保健学科 准教授

会長講演

座長：深谷智恵子 青森県立保健大学 看護学科 教授

特別講演

座長：道又 元裕 日本看護協会 看護研修学校 校長

交流セッション

司会：浅香えみこ 獨協医科大学 越谷病院 救命救急センター
看護師長 救急看護認定看護師

循環器看護の未来を拓く

—侵襲に対する生体反応との出会いから思う—

道又 元裕 日本看護協会 看護研修学校 校長

みちまた ゆきひろ

日本循環器看護学会は2004年11月20日に設立総会(第1回)をもって発足いたしました。本学会の目的は、心臓・血管系だけではなく、脳循環・神経系に健康障害を有する人々も対象とし、三大国民病の主要部分を占める循環器病の看護について学術的に追求することを目的としています。その理念は、循環器病に関する健康問題について市民と医療者(医療の提供者)が協働し、ともに問題解決にあたること。また、循環器病に関する看護学の発展を図り、広く知識・技術の交流に努め、もって市民の健康と福祉に貢献できる看護実践を行なうことであります。

第4回日本循環器看護学会学術集会は、循環器看護がひとつの専門分野として確立し、未来に向かって多くの可能性を広げてゆけるよう、そして、それが循環器看護の対象となる人々にとって満足し得る内容を催す所存です。

循環器領域の医療技術は、科学技術における進歩のちからも相まって、著しい発展を遂げています。最近では、移植医療、遺伝子医療、そして、再生医療などの先進的医療も急速に進んでいます。このような、変化の趨勢の中、循環器看護は、ヘルスケアサービスを受ける患者とその家族のために医療が提供されるための役割を担っています。そのためには、本領域に関わる疫学から予防、病態、治療、最新の情報、エビデンスなどは前提の知識として備えおくことは当然のことです。そのうえで、看護の専門家としての独自のちからをヘルスプロモーションから終末期まで、ベストプラクティスを提供することが必要です。また、患者とその家族のために最良の医療を提供するには、チーム医療によるヘルスケアが不可欠です。看護師は、看護の専門家として医師、その他のコ・メディカル達と協働することも極めて重要な役割であり、時にはチーム医療の要、特に調整役となってゆくような能力とパフォーマンスも必要です。そして、最も必要な点は、それぞれの専門家の業について、それぞれがけん制できる能力を持って、実際にすることです。

さて、小生の看護師としてのスタートは、東京女子医科大学病院熱傷ユニット、循環器外科集中治療室でした。そこで、学び、経験したことはあまりにも沢山ありますが、中でも侵襲が生体に加わったときのダイナミックかつ繊細な反応と、それに対する看護ケアのあり方です。看護は、どんな時でも①患者が生活する環境を整え、自然治癒力を高め、②セルフケア能力を高め、③日常生活を整え、④適応を助けることだと確信しました。

その際に、例えばフィジカルな面からの看護のアプローチは、循環の調整、炎症反応の調節、免疫応答反応の調節、恒常性の維持・調節であるとも考えました。そして、最終的には、患者の足を引っ張らない看護ケアのベストプラクティスの提供が信念ともなりました。

この度は僭越ながら、看護師として循環器看護に携わり、また、クリティカルケア看護をなりわいとする事のきっかけとなった侵襲に対する生体反応と看護ケアについて循環系を中心に話させて頂こうと思います。

心臓にいい話

小柳 仁 東京女子医科大学 名誉教授、聖路加国際病院 ハートセンター 顧問
こやなぎ ひとし

今世紀、人類はいまだかつて経験したことのない超高齢化社会を迎え、しかも日本人の平均寿命は毎年世界の記録を更新しています。その日本人の死因は悪性腫瘍が30%、心臓血管病や脳血管疾患など主として動脈硬化性の血管の病気(循環器病)が30%、つまり現代の日本人の6割は動脈硬化ががんで亡くなっています。

動脈硬化は心臓病や脳血管の病気を引き起こしますが、その本質はいわば老化です。動脈硬化が起きなければ人間は不老不死ですが、そんなことはあり得ません。15~20歳を過ぎると人間には誰しも動脈硬化が始まります。さらに40歳を過ぎれば、生活習慣、社会生活のストレスも加味され動脈硬化はどんどん加速します。「ヒトは血管とともに老いる」とはアメリカで活躍した内科学の権威ウィリアム・オスラーの名言ですが、100年も前のこの言葉が最も今日的な意味を持つのは、まさにこの日本においてなのです。世界に類を見ない高齢化社会、生活の欧米化、激しい競争からくるストレスなど、血管の老化にとって都合の悪い因子に満ちた状況の中で、心臓病の診療と予防の重要性は増すばかりです。

私は開心術が始まったばかりの1960年代の初めの、日野原重明、榊原任(しげる)という二人の巨人に導かれるようにして、この循環器病の分野に入り、生涯をかけてしまった人間です。

解剖学、生理学、人工臓器、薬物治療などすべてが未熟であり、手作りの人工心肺と人工弁、呼吸器代わりの麻酔器のバッグを押す青年医師の終わりのない労働、箱根の山を世界地図で歩くような道しるべのない手術などを自ら経験してきました。それが最終的に40年後には補助人工心臓と心臓移植にまでたどり着いたのですから、豊かな歴史的経験をした医師ともいえるでしょう。外科医40年のあとは、この国の循環器病全体を考えながらすごしてきましたが、最近、現代の日本は、この老化に伴う循環器病と戦うのに適したすばらしい国であると確信するようになりました。考えてもみてください。医療保健のシステム、医療の技術レベル、救急医療の充実した現場、そして医師とナースに始まるマンパワーの充実とその倫理性の高さなどは、欧米先進国と比較しても優れています。動的な病態変動とそれらに対する緊急性を必要とする循環器病の診療にとって、南北3,000kmのこの国土に張り巡らされた情報伝達網と搬送手段を駆使することで理想的な循環器病診療システムが必ず構築できると信じています。これが私の「心臓にいい話」です。

教育講演

1 循環器疾患の周術期管理

司会：甲屋 早苗 聖路加国際病院 CCU

2 心臓リハビリテーションの理論と実際

司会：畦地 萌 群馬県立心臓血管センター リハビリテーション課
心臓リハビリテーション専任看護師

3 カウンセリングとコミュニケーションスキル

司会：池亀 俊美 聖路加国際病院 看護部 看護管理室
ナースマネージャー

4 循環器ケアに必要なモニタリングの知識と実際

司会：村本多江子 社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院
ICU 看護師長

5 循環器疾患を持つ患者・家族の教育的支援

司会：安倍 征子 医療法人鉄蕉会 亀田メディカルセンター
CCU 看護師長

6 スタッフ教育の奥義

司会：中野あけみ 徳島大学病院集中治療病棟 救急部・集中治療部
看護師長、集中ケア認定看護師

循環器疾患の周術期管理

平山 統一 社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院 心臓血管センター 心臓血管外科部長
ひらやま とういつ

【はじめに】

心臓血管外科の周術期管理は、多くの施設では一昔前までは看護師・医師による術後の呼吸循環管理のみを指し示していた。そして、多臓器不全化すると他科依頼を行い仮のチームを組んで対処していた。しかし、クリニカルパスが導入されてからは、周術期管理の概念が一変し看護師・医師に加えて様々な職種が術前・術後に関わるようになってきた。また、最近では術後長期に渡って管理が必要であるとの認識が生まれてきた。

【術前パス】

我々の施設では、術前の患者の全身チェックはパスを用いて行っている。術前パスでは、術前チェックとして全身CT検査、呼吸機能、頸部血管エコー、肝機能、腎機能、DMの有無、消化管潰瘍や既往手術歴などの実施の確認、各検査後の異常の有無を確認している。また、栄養や禁煙指導あるいは術後呼吸法の指導などの教育および服薬・中止薬管理などを看護師・医師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士などが外来にて行っている。さらに疾患毎のパフレットを配布し術前に治療法や合併症などの詳細な情報提供を行っている。

【術後パス】

冠動脈バイパス手術や弁膜症手術、大血管手術など様々な疾患毎のパスを作成し術後の管理を計画的に、スケジュール的に行うことでベテランと同等な管理が新人看護師でも行えるようにしている。このメインのパスから呼吸・疼痛・血糖管理、抜管後嚥下機能評価・せん妄・術後心リハドレーン管理基準などのアルゴリズムを作成して管理の標準化に取り組んでいる。

【重症管理】

呼吸循環動態が安定していればパスによる標準的管理が行えるが、重症心不全や多臓器不全の場合にはより高度の集中治療が必要となる。循環管理では、カテコラミンの持続点滴に加えてIABP、PCPSと言った補助手段を行っている。呼吸管理では、通常の人工呼吸管理、呼吸療法士による肺理学療法、VVECLA(済生会熊本病院バージョン)などを行っている。腎不全に対しては、ベッドサイドでの持続のHDFを行っている。

【術後心リハ・連携パス】

当センターでは、心臓大血管リハビリに力を入れておりこのリハビリを核に疾患に対する理解と再発防止のためのさまざまな教育を行うようにしている。しかし、緊急医療が病院理念の一つである当院では病院完結型医療から地域完結型の医療でなければベッド回転が出来ない現状であり、地域の回復期病院を巻き込んだ心臓大血管リハビリや教育の継続が最重要課題である。そのために心臓大血管術後連携パスや心臓リハビリ連携パスを作成し地域全体で再発防止に対する取り組みを開始している。

【まとめ】 これまで循環器疾患の周術期管理は、術後の限られた期間、医師を中心として少数の人間が関わってきた。クリニカルパスの出現で多職種が深く関わるようになり、管理基準の標準化・文書化の作業からは様々なアルゴリズム作成の必要性を生み出した。その結果として高度のレベルの管理が可能となってきた。その反面、全ての職種に於いて個人に掛かる負担は非常に重いものになったのも間違いなく、今後国レベルで早期解決すべき問題である。

シンポジウム

循環器看護

患者満足へのあくなき挑戦

座長：寺町 優子 前 東京女子医科大学 看護学部
豊田百合子 大阪府看護協会 会長

循環器領域における安全で安心な医療とは

～納得される看護を提供するための課題～

三浦稚郁子 財団法人日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院 看護部長

みうらち か こ

医療の満足とは、患者が期待するよい結果が得られることであるとする、結果に至るまでの医療プロセスがどうであろうと、「結果よければすべてよし」となるのであろうか。循環器医療の技術は日々進歩しているが、高い技術レベルが必要な医療にはリスクも伴い、必ずしも100%満足のいく結果が出せるわけではない。国民の権利意識の変化、インターネットやマスメディアによる情報の氾濫に伴い、国民が医療に求める水準も高度化してきており、単に結果がよければいいという問題だけではなく、結果に到達するまでの医療プロセスにおいて、安全で安全な医療が求められている。その中で患者が満足する医療とは何か？それは、プロセスと結果の両面において、納得のいく医療であることである。

では、納得のいく医療とはどうすれば実現できるのか。どんな結果になったとしても、その医療を受けたことに満足してもらうためには、安心で安全な医療の実践、つまりベストプラクティスの選択であるが、しかしベストプラクティスも100%ではないということを実践した上で治療に参加できるように説明できることである。安全で安心な医療および看護の提供、そして提供する医療と看護に納得してもらえる対応、それを実践するための看護の基本姿勢として必要な対応プロセスは、以下の4つである。

1) 患者さんが何を求めているのかを知る

自分のやりたい看護ではなく、相手が求めている看護を実践する

2) 患者さんが納得される対応を行う

治療との関係で、満たされないニーズもある！しかし、必要性が理解できれば、納得できる

3) 自分で対応できないときは、他者に報告、連絡、相談を行う

困ったことや疑問点を自分だけで対応しようとしない

4) 常に患者さんに十分な説明を行う

非常に簡単なことのようにであるが、この4つのプロセスの中で、どれか一つが不足しても、相手に納得してもらうことはできない。そして、この4つのプロセスにおいて必要な能力は、アサーティブなコミュニケーション能力、循環器医療に対する専門的な知識、状況判断および問題解決能力である。つまり、患者さんに納得される看護を提供するために必要な看護師の能力は、循環器についての専門的な知識は当然必要なことであるが、一部分であり、もっと必要なことは、自分も持っている専門的な知識を相手が理解し、納得できるように説明できる能力と、相手の状況を判断して迅速に問題解決を図ることができる能力であり、そのような能力を備えた看護師を育成することが重要な課題となっている。

慢性心不全患者の予後・QOLの向上を目指した 疾病管理プログラムの構築

眞茅みゆき 国立国際医療センター研究所 医療情報解析研究部 ゲノム疫学研究室 室長
まかやみ ゆ き

慢性心不全は各種心疾患の末期像であり、高齢者が多く、その生命予後が不良であるばかりでなく、心不全増悪による再入院を繰り返す。再入院には、心筋虚血や感染症などの医学的要因ばかりでなく、塩分・水分制限の不徹底、治療薬服用の不徹底、身体的・精神的ストレスなどが密接に関与しており、これらの心不全増悪の誘因の多くは予防可能である。また、退院後の精神症状や不十分な社会的支援が、心不全増悪による再入院の危険因子であることも報告されている。

欧米では、1990年半ばから、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士などがチームを組み、退院後の患者および家族への教育、症状モニタリング、服薬管理などを行う、包括的な疾病管理プログラム（disease management program）の有効性を検証する無作為化比較試験が多数実施されてきた。介入方法は、多職種による介入に加えて、看護師主導の心不全外来、訪問看護、電話による患者教育、またこれらの複合型介入と多岐にわたっている。

このような疾病管理プログラムは、死亡率、再入院率の低下はもとより、QOLの向上や医療費の抑制にも効果を示すことが明らかとなっている。しかしながら、欧米と日本では、医療制度や入院期間などの医療状況が大きく異なるため、欧米での方法、結果をそのまま当てはめることはできない。このような背景から、現在、日本の医療事情の特徴を踏まえながら、慢性心不全患者に対する疾病管理プログラムの、死亡率、再入院率、QOLスコア、精神心理的状況への効果を検証する無作為化比較試験（Japanese Heart Failure Outpatients Disease Management and Cardiac Evaluation：J-HOMECARE 研究）を実施している。

本研究は、慢性心不全の増悪により入院した患者を対象に、退院後の看護師による月2回の訪問指導を4回、月1回の電話による患者指導・療養支援を4回実施する介入群と、外来での通常治療群の2群に分け、退院後1年目までの予後（死亡・心不全の増悪による再入院の有無）、抑うつ、不安、QOLを比較することにより、疾病管理プログラムの効果を検証し、より効果的な疾病管理プログラムの構築を目指すものである。本シンポジウムでは、慢性心不全患者が抱える医学的・心理社会的問題を踏まえながら、J-HOMECAREの実施状況を紹介し、心不全とともに生活する患者に必要な支援は何かを考えたい。

学会概要

日本循環器看護学会会則

第1章 総 則

第1条 本会は日本循環器看護学会Japanese Association of Cardiovascular Nursingと称する。

第2章 目 的

第2条 本学会は、循環器病に関する健康問題について市民と医療者が協働し、広く知識・技術の交流に努め、さらに循環器病に関する看護実践の向上と看護学の発展を図り、もって市民の健康と福祉に貢献することを目的とする。

第3条 本会の事務局を聖路加看護大学内(東京都中央区明石町10-1)に置く。

第3章 事 業

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 学術交流を目的とする学術集会を開催する。
2. 学会誌等を発行する。
3. 研究活動を推進する。
4. 医療職・市民を対象とした啓発活動を推進する。
5. 政策的アプローチを行う。
6. その他、理事会が必要と認めた事業を行う。

第4章 会 員

第5条 本会の会員は次のとおりとする。

1. 正会員
2. 賛助会員
3. 名誉会員

第6条 正会員とは、循環器病に関心のある実践者、教育者、もしくは研究者であり、本会の目的に賛同し、理事会の承認を得た者とする。

2. 正会員は総会に出席し議決権を行使することができる。
3. 正会員は、会誌に投稿し、学術集会で発表し、会誌等の配布を受けることができる。

第7条 賛助会員とは、本会の目的に賛同する団体で、理事会の承認を得た者をいう。

第8条 名誉会員とは、本会の発展に多大な貢献をした者で、理事長が理事会および評議員会の議を経て総会に推薦し、承認を得た者とする。

2. 名誉会員は評議員会に出席し、意見を述べるができる。
3. 名誉会員は会費の納入を必要としない。

第9条 本会に入会を認められた者は、所定の年会費を納入しなければならない。

2. 既納の会費は、理由のいかんを問わずこれを返還しない。

第10条 会員資格の喪失

会員は、次の理由によりその資格を失う。

1. 退会
 2. 会費の滞納(2年間)
 3. 死亡または失踪宣言
 4. 除名
2. 退会を希望する会員は、退会届を理事会に提出しなければならない。

3. 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に著しく反する行為のあった会員は、評議員会の議を経て、理事長がこれを除名することができる。

第5章 役員および学術集会長

第11条 本会に次の役員を置く。

1. 理事長 1名
2. 副理事長 1名
3. 理事 15名以内(理事長および副理事長を含む)
4. 監事 3名
5. 評議員 50名以内とする。

第12条 役員の選出は次のとおりとする。

1. 理事長および副理事長は、理事会で理事のうちから選出し、総会の承認を得る。
2. 理事は3年ごとにその半数を改選する。
3. 理事および監事は、評議員のうちから選出し総会の承認を得る。
4. 評議員は正会員の中から選挙により選出する。選出の方法は別に定める。

第13条 役員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き6年を超えて在任することはできない。

第14条 役員は次の職務を行う。

1. 理事長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるときはこれを代行する。
3. 理事は理事会を組織し会務を執行する。
4. 監事は本会の事業、会計および資産を監査する。
5. 評議員は評議員会を組織し、理事会の諮問に応じ本会の重要事項を審議する。

第15条 学術集会長

本会は毎年1回学術集会を主宰するために学術集会長をおく。

第16条 学術集会長は、理事会の推薦により評議員会で正会員の中から選出し、総会の承認を得る。

2. 学術集会長の任期は1年とする。
3. 学術集会長は、理事会、評議員会に出席することができる。

第6章 会 議

第17条 本会に次の会議を置く。

1. 理事会
2. 評議員会
3. 総会

第18条 理事会は理事長が召集し、その議長となる。

2. 理事会は年2回以上開催する。ただし、理事の3分の1以上から請求があった時は、理事長は臨時にこれを開催しなければならない。
3. 理事会は理事の過半数の出席をもって成立する。
4. 監事は理事会に出席し、意見を述べることができる。

第19条 評議員会は理事長が召集し、その議長となる。

2. 評議員会は毎年1回開催し、評議員の過半数の出席をもって成立する。

第20条 総会は、理事長が召集し、学術集会長がその議長となる。

2. 総会は、会員現在数の10分の1以上の出席がなければ議事を開き、議決することはできない。

第4回日本循環器看護学会学術集会運営委員

企 画 委 員

企画委員長	道又 元裕	日本看護協会看護研修学校
委員(50音順)	池亀 俊美	聖路加国際病院
	杉澤 栄	日本看護協会看護研修学校
	中田 諭	日本看護協会看護研修学校

実 行 委 員

実行委員長	中田 諭	日本看護協会看護研修学校
副実行委員長	杉澤 栄	日本看護協会看護研修学校
委員(50音順)	安藤 有子	関西医科大学附属枚方病院
	石濱 慶子	日本看護協会看護研修学校
	磯部 宏美	社会保険中央総合病院
	伊藤 有美	杏林大学医学部付属病院
	上北 真理	旭川医科大学病院
	梅内美保子	日本看護協会看護研修学校
	江崎 留奈	財団法人住友病院
	戎 初代	亀田総合病院
	遠藤 祐子	(株)日立製作所日立総合病院
	大槻 勝明	土浦協同病院
	大南 千秋	岩手県立中央病院
	葛西 妙子	都立広尾病院
	勝 博史	都立府中病院
	川上 悦子	長崎大学医学部歯学部附属病院
	楠 さくら	武蔵野赤十字病院
	小杉 一江	静岡県立総合病院
	佐藤 明子	杏林大学病院
	佐藤 晃子	獨協医科大学病院
	杉原 博子	岐阜大学医学部附属病院
	高橋 栄樹	浜松赤十字病院
	立花亜紀子	日本看護協会看護研修学校
	辻 佐世里	関西医科大学附属枚方病院
	露木 菜緒	浜松医科大学医学部附属病院
	永野 由紀	高知大学医学部附属病院
	西川 正美	金沢赤十字病院
	原田 恭子	日本医科大学付属病院
	原 知江	三重県立総合医療センター
福西由貴子	大田原赤十字病院	
松尾 友子	東邦大学医療センター佐倉病院	
村中 烈子	医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院	
八木橋智子	自治医科大学附属さいたま医療センター	
山岡 国春	神戸大学医学部附属病院	
吉田 幸子	長野赤十字病院	
吉原 千景	済生会宇都宮病院	
若林 世恵	富山大学附属病院	

ご支援をいただいた企業一覧

2007年10月20日現在 50音別

下記の方々より多大なるご賛同をいただきました。心より深く感謝いたします。

第4回日本循環器看護学会学術集会 道又 元裕

寄付金

ヴィクソンインターナショナル株式会社
株式会社 照林社
田中医科機械製作所

ランチョンセミナー共催

ヴィクソンインターナショナル株式会社
株式会社 メディカ出版
ブリストルマイヤーズスクイブ コンバテック事業部

出展企業

株式会社 VIPグローバル
株式会社 アーネット
センチュリーメディカル株式会社
ティーアンドケー株式会社
ニチバン株式会社
持田ヘルスケア株式会社

書籍展示

株式会社有隣堂

広告掲載

アルケア株式会社
株式会社 照林社
株式会社 中山書店
株式会社 日総研出版
株式会社 日本看護協会出版会

市民公開講座協賛

アークレイマーケティング株式会社
江崎グリコ株式会社
株式会社 ニチレイフーズ

次回開催案内

第5回日本循環器看護学会 学術集会

会 期：平成20年10月18日(土)・19日(日)

会 場：青森県立保健大学（青森市大字浜館字間瀬）

会 長：深谷智恵子（青森県立保健大学 教授）

第4回日本循環器看護学会 学術集会 プログラム・抄録集

発 行：平成19年11月1日

編 集：〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-2-3
日本看護協会 看護研修学校内
第4回日本循環器看護学会学術集会事務局
事務局長 中田 諭
TEL (042) 492-7249 FAX (042) 492-8653
E-mail : satoshi.nakata@kiyose.nurse.or.jp

印 刷：Next COMPANY **Secand** 株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL096-382-7793 FAX 096-386-2025